

第71次 印旛地区教育研究集会

国語「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

「読みの力」を高める国語科指導のあり方

～生徒指導の機能を生かした学習指導を通して～



佐倉市立佐倉東小学校

目次

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究仮説	3
4	研究構想図	6
5	実践例	
	（1） 第2学年の実践	7
	（2） 第5学年の実践	24
6	成果と課題	44

資料編

1	言語環境の整備・語彙力をつけるための取り組み	資1
2	読書環境の充実	資5
3	その他の実践	資8
4	QUアンケート結果	資12

1 研究主題

「読みの力」を高める国語科指導のあり方

～生徒指導の機能を生かした学習指導を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

近年、グローバル化や世の中の急激な変化に伴い、先行きの不透明な時代を迎えており、これまで以上に児童自らが考え、判断し、選択していく力が求められている。これからの社会に子ども達が積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力「生きる力」をしっかりと付けていくことがよりいっそう重要となる。

国語科では、育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」と規定され、児童が「言葉による見方・考え方を働かせる」ことが必要と述べられている。正確に理解するためには、「読みの力」を高めていくこと、言葉そのものを理解し、言語感覚を養っていくことが大切である。中央教育審議会答申においては「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の質と量の違いがある」と指摘されている。語彙力は全ての教科等における学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素であり、語彙を豊かにする取り組みが必要である。言葉によって自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすること、言葉から感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心が豊かになる。語彙を豊かにすることは心の豊かさにもつながっていく。言葉を通じて人や社会と関わりながら理解を深めていくことは、様々な場面において大切なことである。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められており、そのためには教師と児童との信頼関係や児童相互の人間関係が良好であることが重要となる。

これらを踏まえ、本校では全ての力の基礎となる語彙力を豊かにすること、安心した教室の中で友達と交流し合いながら自分の考えを深めていくことが「読みの力」を高めることにつながると考えた。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は

スローガン 「なかよし」

㊦とにやさし子……………思いやりのある「豊かな心」を育む

㊧んばれるたくましい子……………活力にあふれる「健やかな体」を育む

㊨んげんに学びに向かう子……………人生を拓く「確かな学力」を育む

学力を身に付けさせていくことはもちろんであるが、その前に子ども達の学ぶ環境、安心して生活できる教室、学級づくりが大切であると考えます。その土台があってこそ、子ども達は自分の力を磨き、発揮していくことができるであろう。たとえ間違っただけのことを発言しても受け入れてもらえる教室、教え合い、励まし合う仲間がいる教室で学ぶことは、何にも増して大きな要素となる。互いを認め合い、一緒に高め合うことのできる学級づくりを大切にしながら、国語科についての「読みの力」を高めていきたい。

(3) 児童の実態から

本校は、児童数246名、通常学級10クラスと特別支援学級2クラスからなる、今年で47年目を迎える学校である。団地の外れに位置しているが、昔からの地域もあり、学区は比較的広い。学校にはグラウンドが4つあり、周囲は自然が豊かであるので、虫取りや草花遊びなど、子ども達は四季の変化を感じつつ、明るくのびのびと過ごしている。1年生から6年生までの縦割りのなかよし班での活動も、年間を通じて設定されており、「なかよしタイム」「ふれあい給食」など、東小スローガンである「なかよし」を目指し、6年生のリーダーを中心に取り組んでいる。児童は、明るく素直であるが、自分の気持ちをうまく伝えられず、相手の気持ちを考えた言動がとれないことでトラブルを起こしてしまう児童も少なくない。これは、語彙の少なさから起こるものとも考えることもできる。学習に対しては、きちんと取り組もうとする児童が多いが、わからない問題について粘り強く取り組んだり、自分の考えを進んで伝えたりすることに関しては、苦手意識をもっている児童が多い。家庭は概ね協力的であるが、学習に対する関心は高いとは言えない。

国語科アンケートの結果を見ると、「国語の学習は得意か」という質問に対し、「とてもそう思う」と答えた児童が30%しかいない。低学年では30%を超えているが、中学年、高学年と学年が上がるにつれて苦手意識をもつ児童が増えていることがわかった。本をよく読むと答えた児童は、80%程度であった。朝読書の時間が一日の中に設けられているので、全員が本を読む時間が確保されているため、本をよく読むと答えた児童が多いのではないかと考える。しかし、よく読むと答えた児童も図鑑やひみつシリーズなど、比較的絵の多い本や文字の大きい本を読んでいる傾向にある。また、物語文に対して、80%程度の児童が「登場人物の性格や気持ちを想像しながら読んでいる」と回答しているが、学力調査型テストの結果を見ると、物語の読み取りの正答率は50%にも満たない。このことから児童の意識と学力に差があることがわかる。言語に関する問題では、正答率は70%である。さらに細かく見ていくと、漢字の読み書きの正答率は80%と比較的高い。しかし、敬語や外来語など、言語事項についての正答率は40%と程度と下がり、語彙力が低いことがわかる。

このことから、まずは語彙力を増やしていくことや読書の質を上げることを目指すための取り組みをしていきたいと考える。これは、国語科学習に限らず、子ども達を取り巻く環境から、自然に語彙力を身に付けていけるような手立てを講じていきたい。また、安心して学習できるような学級作りを大切にしながら、自分の考えを生き生きと伝え合うことのできる姿を目指し、実践していきたい。

○QUアンケートの実施

年2回、「学級満足度」と「学校生活意欲」を問うQUアンケートを実施している。児童が自分のクラスをどのように感じているか、どんな問題点を抱えているかを図るものである。その結果を踏まえ、配慮を要する児童を把握することで、児童一人一人に寄り添いながら声掛けを行ったり、支援をしたりしていけるような指導を心がけていく。

目指す児童の姿

自分の言葉で考え、伝え合うことの良さを実感し、友達の考えを共感的に受け止めながら読みの力を高めていける児童

3 研究仮説

仮説 1

「読むこと」の学習の場において、付けたい力を明確にし、指導過程や指導方法を工夫改善すれば、児童の読みの力を効果的に高めることができるであろう。

<手立て>

- (1) 指導過程や指導方法の工夫改善
 - ・付けたい力に見合った言語活動
 - ・並行読書
 - ・導入の工夫
 - ・単元のゴールを見通した学習計画
 - ・ワークシートの活用

- (2) 読書環境の充実
 - ・東小ミニ図書館の設置
 - ・読書貯金ノート
 - ・読み聞かせ
 - ・先生のおすすめの本

- (3) 言語環境の整備・語彙力を付けるための取り組み
 - ・音読カードの活用
 - ・詩の音読・暗唱
 - ・学習掲示の充実
 - ・言葉コレクション

仮説 2

授業において、生徒指導の機能を生かした学習指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、生き生きと学ぶであろう。

生徒指導の機能とは・・・生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、自己指導能力の育成を目指すものである。そのために、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」という3つの生徒指導の機能を柱にしなが、学習指導方法を工夫していく。

<手立て>

- (1) 自己決定の場を与える・・・児童が自分で考え、判断し、決定できる場面を意図的に設定することで、「自分で決めて学習しているのだ。」という気持ち（自己決定感）を育てる。
 - ・児童の興味・関心を喚起する資料や教材の提示方法の工夫
 - ・一人調べ学習や考える時間の十分な確保
 - ・学習教材や表現方法の選択
 - ・個に応じた指導と支援の工夫、本時の学習を振り返る場の設定などの工夫

- (2) 自己存在感を与える・・・一人一人をかけがえのない存在として捉え、その個性や独自性を大切にすることで、「やればできるのだ。」という気持ち（自己存在感）を育てる。
 - ・児童一人一人の発言や活動の場の意図的な設定
 - ・授業中の承認・称賛・励まし、ノート・作品等への評価の記入など
 - ・多様な考えの受け止めや、発言しない児童への配慮

- (3) 共感的人間関係を育成する・・・児童の考えや思いをありのままに受け止めることで、「自分は周りの人から受け入れられているのだ。」という気持ち（他者受容感）を育てる。
 - ・人の話をしっかり聞くことのできる態度の育成（学習規律の徹底）
 - ・お互いの良さを認め合ったり、安心して発言したりすることのできる温かな学習環境づくりと相互交流活動の工夫

生徒指導の三つの機能

自己決定の場を与える

自己存在感を与える

共感的人間関係を育成する

具体的には

- ・児童の実態に合った言語活動を選択し、児童と一緒に学習計画を作る。
- ・レベル別ワークシートを用意し、選択させる。
- ・並行読書においては、言語活動に合った本の選定をし、読みたい本を選択させる。
- ・自分の考えをもたせるための時間を十分に与える。
- ・表現方法を選択させる。
- ・振り返りの時間を確保し、どのように学習に取り組んだかを自己評価させる。

↓

- ・児童自らが自己決定をすることを大切にし、主体的な学びを目指す。

- ・「なるほど」「がんばったね」等の声掛けや、ノート等への一人一人に向けたコメントなどで承認・称賛や励ましをする。
- ・どんな考えも受け止め、大切にする。
- ・つぶやきを積極的に取り上げ、発表のチャンスを与える。
- ・発言の機会を与えられるように学習形態を工夫したり、グループの構成を配慮したりする。
- ・発言をしない児童にも配慮する。

↓

- ・一人一人の考えを大切にし、意見交流することを通して、対話的な学びを目指す。

- ・一人一人の発言を受け入れ、うまく言えなくても言い終わるまで待ち、間違った意見も笑わずに聞けるようにする。
- ・友達の考えにうなずいたり、拍手をしたりしながら共感的に聞く事ができるようにする。
- ・相互評価を取り入れ、お互いの良さを認め合うようにする。
- ・児童が安心して学習できるような学級作りをする。

↓

- ・お互いの考えを大切にし、多様な発言をつなげていくことで、深い学びを目指す。

佐倉東小研究構想図

【指導の重点及び努力点】

- ・基礎学力の定着
- ・読書の促進
- ・研究・研修を通じた授業力の改善・向上
- ・主体的、対話的な学びを取り入れた授業づくり

【学校教育目標】 ～東小スローガン～ なかよし

- とにやさしい子 思いやりのある「豊かな心」を育む
- んばれるたくましい子 活力にあふれる「健やかな体」を育む
- んげんに学びに向かう子 人生を拓く「確かな学力」を育む

【児童の実態】

- ・学力差が大きい
- ・自己肯定感が低い
- ・語彙が少ない
- ・自分の気持ちを相手にうまく伝えられない

【国語科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通じて、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝える力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【目指す児童像】

自分の言葉で考え、伝え合うことのよさを実感し、友達の考えを共感的に受け止めながら読みの力を高めていける児童

【研究主題】

「読みの力」を高める国語科指導のあり方
～生徒指導の機能を生かした学習指導を通して～

【仮説 1】

「読むこと」の学習の場において、付けたい力を明確にし、指導過程や指導方法を工夫改善すれば、児童の読みの力を効果的に高めることができるであろう。

【仮説 2】

授業において、生徒指導の機能を生かした学習指導方法を工夫すれば、児童の学習意欲が高まり、生き生きと学ぶであろう。

【研究内容】

日常実践

- 読書環境の充実
- 学習コーナーや階段の学習掲示
- 行事ごとのミニ作文
- 詩の音読・暗唱

家庭での実践

- 音読カードの取り組み
- 家庭学習

**読みの力
UP**

授業実践

- 付けたい力に合わせた言語活動
- 教材提示の工夫
- 考える時間の十分な確保
- 並行読書
- 語彙力アップの取り組み
- 振り返り活動